

第4回 若者円卓会議

議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：令和3年5月11日(火) 17:15～18:15
2. 場所：8号館4階416会議室
3. 出席者：

<政府>

西村 康稔	内閣府特命担当大臣(経済財政政策)
赤澤 亮正	内閣府副大臣
和田 義明	内閣府大臣政務官

<委員>

座長	柳川 範之	東京大学大学院経済学研究科教授
委員	関家 ちさと	独立行政法人労働政策研究・研修機構研究員
委員	高橋 祥子	株式会社ジーンクエスト代表取締役 株式会社ユーグレナ執行役員
委員	田中 沙弥果	一般社団法人Waffle代表理事
委員	土肥 潤也	特定非営利活動法人わかものまちなち代表理事、 一般社団法人トリナス代表理事
委員	御手洗 光祐	大阪大学大学院基礎工学研究科助教

(議事次第)

1. 開会
2. 議事
若者の活躍に向けて(とりまとめ)
3. 閉会

(説明資料)

- 資料1 若者円卓会議 とりまとめ(案)
資料2 若者円卓会議 とりまとめ(参考資料)

(概要)

(柳川座長) ただ今から第4回「若者円卓会議」を開催する。

本日は、「若者の活躍に向けて」、本会議の取りまとめ案について御議論いただきたい。

皆さんのお手元に現状の取りまとめ案について資料があると思うので、時間の節約のために改めて説明はしない。今日が最後の会になる。取りまとめ案の文章等につい

て御意見等があれば御自由に出していただきたい。

この会議としての取りまとめになるので、自由度はまだかなりあると思うが、自分が参加した、自分の名前が入っている報告書として良いか、もっとういことを書いてほしいとか、できることには限界があるが、何かあれば出していただきたい。

（御手洗委員） 自分の発言に関しては、取り入れていただいている。競争研究費からの運営費交付金や、博士課程の学生を増やすためには、ドクターに進んだ後の道を明確化する、メリットがある、ということを出したが、その辺りが一番強調されていて、しっかり記載されているので、個人的には自分の意見は盛り込んでいただけたいと思う。

（高橋委員） 私の申し上げたことも盛り込まれており、具体的な案を書いているところもあるので良いと思う。

改めて、推したいポイントは、女性のSTEM教育と博士課程の経済的支援、あとは大学研究者の起業のガイドラインの策定を改めて強調したい。特に3つ目の大学研究者の起業ガイドライン策定については、お金がとても掛かるようなことではないため、その辺りを強調したい。

その点、5ページ一番上に、研究者の起業をスムーズにするために利益相反回避に関する事例をまとめたガイドブックを作成すると書いており、作成するだけでなく、きちんと運営されるようになれば良いと思う。

（土肥委員） 私も大丈夫だと思うが、改めて読んで訂正したほうが良いと思ったのは、9ページ、「地方における子ども・若者支援」に「このため、図書館などの公共スペースを利用し」と書いているが、おそらく、私が図書館の事例を発表したため「図書館などの」と書いていると思うが、唐突感があると感じた。また、いわゆる「公設の図書館が」という印象も受けると思ったので、「図書館」と特別に書かず、「公共スペースを利用し」とだけ書くほうが良いと思った。

（田中委員） 西村大臣が先日、「地方の理系女子学生を増やすためにはどうしたらいいのか」と発言され、それについて内閣府の方でリサーチいただいたが、御手洗委員から発言のあった、アフーマティブアクションのような部分があったため、追加のコメントをしたいと思う。

女子推薦枠というのがあって、日本だと神奈川大学工学部、名古屋工業大学が女子枠をつくっている。

名古屋工業大学機械工学では女子学生の倍増とメディアでも取り上げられたので、女子推薦枠を地方の国立でつくれば、女子の地方学生を増やすことができるのではないかなと思う。

実現可能性については分からないが、女子大で工学部設立というのもあり、奈良女子大学が女子大で初めて2022年度に工学部を新設する予定だ。内容も工学部だけでなく、リベラルアーツ型でやっているのだから、女子大での工学部新設は、個人的に増えてほしいと思う。

あと1点、ロールモデルについてだが、これも参考資料の14、15ページに、「身近なロールモデルが女子生徒の進路に与える影響」について記載されている。その点に関して、内閣の男女共同参画局がSTEM Girls Ambassadorsという理系女性の先輩を認定し、全国各地を回って講演活動をやっているが、現在、STEM Girls Ambassadorsに認定されている方が7名しかいないため、全国的な、学校のキャリア教育や総合学習

の時間で行えるよう、身近に呼べる方々を全国47都道府県に増やすことができれば、ロールモデルが増えると思う。

（関家委員） 申し上げたことは反映されていると思う。

その上で、書き方の部分を調整してほしいところが一つある。6ページ、「主体的なキャリア形成とライフイベントへの対応」に「このほか、結婚・子育て等のライフイベントへの対応として、男性の家事・育児参加を進めることも視野に入れ、政府からの関連情報の発信を行う」と書いてある。発言の趣旨としては、今後、夫婦で共働きをしていく上では夫婦の対話が大事になってくると考えるため、夫婦の対話が重要になる、ということ、それを推進する情報を国から提供していくことが重要であるという書き方を御検討いただきたい。

（柳川座長） 一点確認しておきたい点がある。大きな話としては、今日も何人かの方からお話が出ているが、理系女子の活躍を促進することがかなり大きなメッセージとして挙がっている。そのことは皆さんの総意だと思うし、私もとても重要なことだと思うが、その理由は、現状、理系に進出するのが男性に圧倒的に偏っているので、そういう意味で、バランスを取るために理系女子をプッシュする必要があるのだという理解で良いのか、それとも、単に男女半分半分ということだけではなくて、もう少し女性の理系進出に何らかの積極的な意味があるかと考えるのか、確認しておきたい。積極的な意味があれば、そこは単に女性が少ないからというだけではなくて、もう少し何か書き込んでおいたほうが良いかと思う。その辺りは、皆さんの御意見を少し補足していただきたい。

（御手洗委員） 個人的には、半分ではないから半分にしたいという意味ではなく、現在、ほぼ男性しか理系に進出していないということは、理系の才能を持っている女性の方が文系に進んでしまっている現状があると思っていて、10対1ほどの比率で理系では男性が多いようになっている。これは明らかに理系の才能を持っている女性の方々を潰してしまい、優秀な人材をみすみす逃しているような状況になっていると思うので、そういう意味で女性がもっと理系に進学とか就職しやすいような仕組みをつくっていき、積極的に女性を増やしたいと考えている。

（田中委員） 私からは、別の観点でお伝えする。今後の社会はAIやIoTのように、社会基盤がIT技術でつくられていく。IT技術の作り手が高収入で、ジョブ型雇用に移行しやすい分野なので、今後、IT分野に女性参画が進むと、女性活躍と男女の賃金格差を埋めていけるというのが一つのメッセージ。

ただ、それをやろうと思うと、研究者の時点で女性が少なく、さらに大学進学時点で工学部の女性比率は15%。もっと前の段階では、文系、理系で大きく分かれていて、47%の男子が自分は理系であると思っているのに対し、女子はその半分しか自分は理系だと思っていない。中高の段階できちんと文系、理系で分けるのはナンセンスだが、とりあえず、理系分野に行くことをまず選択肢として持ってもらう。かつ、理系だけではなくて、IT技術の作り手という選択肢を持っておくことがすごく重要だと思うので、理工系の女性を増やす、これからの社会の作り手を増やすためには、中高の時の啓発が必要である。

（高橋委員） 理系だけではなく、例えば起業家や研究者、経営者も全て女性が少ないと言われていると思うが、これからの日本を考えたときに、少子高齢化でどんどんパワープレイができなくなっていくときに、活躍したい人、活躍できる人が純粋に活

躍できる社会にしたほうが圧倒的に日本にとって良いと思っている。では、今できていなくて伸び代があるところはどこなのかというと、本来の能力ではなく、外部要因、環境要因によって女性が少ない領域に手を入れていくのが論理的に考えても良いのではないかというスタンス。

女性活躍というと、女性がかawaiiそうだからみたいな論調で言われることがあるが、全然そういった感情論的な話ではなく、今後の日本を考えていくと、どう考えてもそこは改善していったほうが良い。

(柳川座長) 今の御指摘はとても重要なところだと思う。皆さん、ほぼ同じようなことを違う側面からお話しいただいたのだと思うが、やはり日本全体の活躍分野を高めていくという意味では、女性の選んでいる選択肢がかなり歪んでいるのではないか。それをしっかり適切な形にしていくことが女性の活躍にもなり、社会全体の大きな発展にもつながるということかと思うので、その辺りは少し強調して書いておいたほうが、単に女性が恵まれない状況にあるからという話ではないというメッセージが込められているということが伝わるようにしたいと思う。

私が意見をここに反映させるというよりは、皆さんが思っていること、あるいは願っていることをできるだけ報告書に反映させるというのが、一人だけ年齢層が違う私の役目だと思っているので、そういう意味で皆さんの御意見が反映されているということなので、現状は取りまとめ案だが、これを尊重する形でまとめていきたい。

今後に関しては、西村大臣ともよく相談しながら事務局の皆さんと取りまとめ作業を進めてまいりたい。

必要に応じてそれぞれ個別に御相談させていただくが、取りまとめ作業に関しては私と事務局に御一任いただければありがたい。よろしいか。

(「異議なし」と声あり)

(柳川座長) それでは、御一任いただいたということで、取りまとめ作業を進めたい。

以上をもって、第4回「若者円卓会議」を終了する。大変熱心に御討議いただき感謝申し上げます。これで閉会とさせていただきます。

(以上)